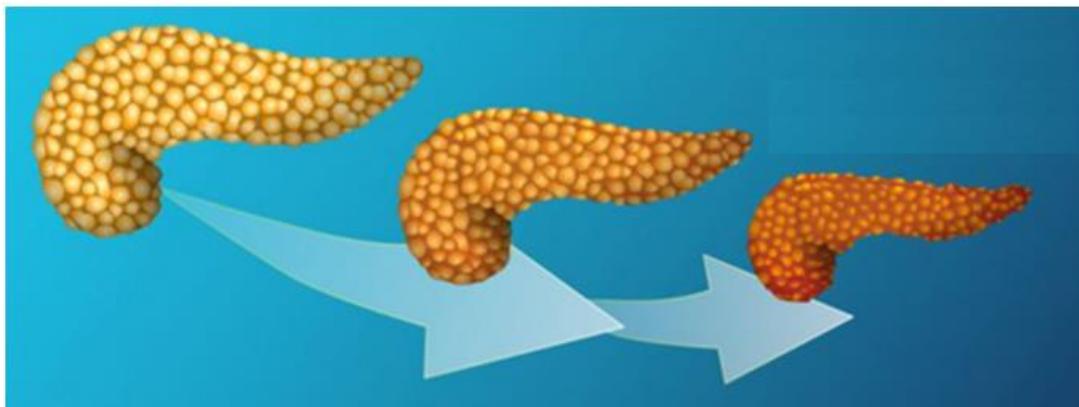


非アルコール性・早期慢性膵炎 について

脂肪摂取量の増加とともに、お酒が原因ではない「非アルコール性慢性膵炎患者」は増加傾向にあります。とくに、早期のものでは、症状があるにもかかわらず、検査で明らかかな異常を認めないため、医療機関を受診しても正確な診断がなされず、しばしば「神経症」として扱われているのが現状です。このような患者さんに対して、私たちは「潜在的な慢性膵炎」として、その診断治療に努めてまいりました。



近年、慢性膵炎をより早期の段階で発見しようとする試みがなされ、その診断方法が確立されつつあります。私たちは、慢性的に持続する上腹部痛を有するにもかかわらず、血液検査、腹部超音波、CT、上部内視鏡検査では明らかな異常を認めない非アルコール性早期慢性膵炎患者に対する診断・治療法について報告し、国際的な医学雑誌「Pancreas」に掲載しました。



普段、上腹部痛でお悩みの方は、ぜひ一度ご相談ください。

